

2020年7月6日

理学部・理学研究科の学生・大学院生の保護者の皆様へ

理学部長・理学研究科長 村上哲明

新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大による国の緊急事態宣言と東京都による緊急事態措置の発令に伴い、東京都立大学のキャンパスが閉鎖されました。理学部・理学研究科においても、前期の全ての講義と実習がオンラインのみでの開講となり、学内での研究活動も完全に停止しておりました。保護者の皆様におかれましては、ご子息・ご息女の勉学や研究活動の停滞を大変心配されておられるのではないかと思います。そこで、現在の理学部・理学研究科の状況について説明させていただきたいと存じます。

まず、オンラインのみで講義をおこなうことは、我々教員にとっても初めての経験でしたし、当初は受講生の反応がすぐに見えないなど難しい点もありました。一方で、座る席によって板書やスライドが見えにくいといったことが一切なく、授業中に教員の側から受講生一人一人に発言を求めやすい、受講生の側からもチャット機能などを使って教員に質問がしやすいなど、オンライン講義のメリットも見えてきました。オンラインだから講義の質が特に低下していると言うことはありませんので、その点はどうかご安心下さい。

一方、研究に関しては、大学の研究室に出て来られなくなった結果、特に実験が必要な専門分野(実験系)の卒業研究生や大学院生(卒研生・院生)において、大きな支障が出ておりました。そこで、5月25日(木)に緊急事態宣言が解除されると、修了や卒業を9月末や来年3月末に控えた最終学年の一部(特に実験系)の卒研生・院生から順次、登校して研究活動を再開することを認めました。とはいえ、登校してもらったのは当該の卒研生・院生が自ら望み、指導教員がその研究再開の緊急性を認め、さらに適切に監督して感染防止策を徹底できる場合のみに限定しておりました。教員が卒研生・院生に、研究の再開を強要することは決してありませんでした。

さらに6月29日(月)からは、全ての卒研生・院生の研究目的での登校を認めております(これも、あくまでも本人が望んだ場合のみです)が、体調に少しでも異常がある場合は登校しない、手洗い・手の消毒の慣行、研究室内で三密を避ける(距離を取る)、マスクを常に着用する、接触感染を避けるために複数の人が触れる機器類などは使用前後にアルコールなどで必ず消毒するなど、感染防止策は徹底して実施しております。もちろん、これで安心と言うことがないのが新型コロナウイルスの恐ろしいところではありますが、理学部・理学研究科においては、卒研生・院生が自ら研究活動行うことによって得られる教育効果は絶大です。そこで、我々教員としても最大限の注意を払いながら、卒研生・院生による研究活動を再開させております。今後も、状況の変化を注意深く見守りながら、臨機応変に対応していくつもりですので、ご理解をいただければ幸いです。